

### 第3回「日本のクルーズ市場の持続的発展に向けた有識者検討会」

#### 議事概要

日時：令和7年4月25日（金）13:30～16:00

場所：経済産業省別館 231 各省庁共用会議室

議事：一部委員及びゲストスピーカーからクルーズ市場の拡大に向け、現状や取組をプレゼンの後、検討会とりまとめ骨子案について議論。委員からの主な発言は以下のとおり。

#### 【主な発言（とりまとめ骨子案について）】

##### 1章「はじめに」

- ・4ポツ「過去のとりまとめ、構想」についてはもう少し具体的に記載すべき。取組途上の部分についても実施済事項とそうでない事項について具体的な記載があってもよい。
- ・クルーズ元年の部分には、飛鳥Ⅲや MITSUI OCEAN FUJI のデビューや更なる新船導入など、最近の上向きな面での傾向も記載してはどうか。
- ・一般目線でも理解を得る必要があるため、クルーズの社会的意義や国民への恩恵（ウェルビーイングなど）を記載すべき。
- ・国交省で発表されている観光立国推進基本計画での目標についても初めに記載してよいのでは。

##### 2章「クルーズ旅行が提供する主な価値」

- ・見出しは「クルーズ旅行が」ではなく、「クルーズ産業が」としたい。
- ・雇用創出について、世間は人手不足であり、省人化が進められる中、単純な雇用創出というだけではなくどういった分野の雇用を創出するという観点を表した方がよい。
- ・業界としては人手不足と感じており、特に航海士、機関士の志望者がいない。子供のころから船に親しんでもらうことが最適である。
- ・クルーズはオーバーツーリズムの軽減にはあまり貢献しないのではないかと。観光庁でも打ち出している地方分散への貢献があるのではないかと。
- ・非常時の活用について、最近のクルーズ船の作りが専門的となっているため、船会社側の乗組員なくして動かすことができず、ハードルが高いと考えている。
- ・旅育、船育という言葉があるように、(4)の国際交流の促進については、一般のお客様のメリットとして大きなポイントと考える。
- ・テーブルマナー、生活マナーなど、様々な事柄へのタッチポイントがあるという点を盛り込むと良い。

##### 5章「クルーズ市場の課題・可能性」

- ・(ジャパネットからのプレゼンやこれまでの経験から) 情報提供の側面については、旅行会社やテレビを否定するのではなく、多面的な情報発信ということにした方がより良いと考える。

以上